

第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画（案）に対するパブリックコメント意見一覧

【概要】

平成24年8月1日(水)～8月31日(金)まで、市内の主な公共施設及び市ホームページにおいて公表し、第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画（案）に対するパブリックコメントの意見募集を実施しましたところ、7名（10件）の貴重なご意見をいただきました。ご意見の内容を踏まえ、市及び本市地域公共交通会議において検討しましたところ、計画修正の必要な箇所はありませんでした。

なお、これらのご意見と、ご意見に対する市の考え方は下記のとおりです。

NO	ご意見	市の考え方	公表可否
【モックルコミュニティバスの利用促進と路線バスとの連携についての考え方】			
1	モックルバス運行の改善について、同バスの最高運賃200円は好評のため、利用者が増加傾向にあります。更なる改善を以下に要請します。 (1)大阪南医療センターを利用する人が多く、始発の同センター玄関口着が9時35分を過ぎるため、始発時刻を現状よりせめて、30分早める。	モックルコミュニティバスは、既存のバス路線とのネットワーク化を図り、主に市役所・キックス・病院などの公共施設へのアクセスの充実を図る目的で運行しております。平成22年度からは、上限200円運賃の試行運行を実施し、利用者数は増加しております。 本計画においては、モックルコミュニティバス上限200円運賃の試行運行から本格運行への移行を目指すとともに、モックルコミュニティバスと半分程度が同じルートで、終点もほぼ同じ（大阪南医療センター付近）である路線バス千代田線にモックルコミュニティバスと同様に上限200円運賃の導入を検討し、路線バスとの有機的な連携によるバス利用の促進を図りたいと考えております。 ご意見いただきました内容については、モックルコミュニティバスの利用促進を図るための取り組みを実施していく上での参考にさせていただきます。	可
	(2)大阪南医療センター玄関口発11時36分から13時36分まで、2時間待ちは困る。12時36分発を運行する。		可
	(3)私は三日市町駅前から始発に乗車しますが、すでに満席になっており、途中乗車も多く、満員の運行状況になっており、高齢者が多く、席の譲り合いになっている。始発と次発の間に1便を増やす。		可
	(4)キックスにおける講演会等の開始時刻が2時が多く、北行のモックルバスでは遅刻になっており、運行時刻を(1)のようにする必要がある。		可
【本市の交通体系の基本的な考え方と新たな路線等の検討について】			
2	モックルバスが、今は美加の台～国道371号を通過して大阪南医療センターに行っていますが、南北青葉台～南ヶ丘～大矢船～南花台～市役所（公共施設）へのルートを作ってほしい。	本市のバス路線は、千代田駅・河内長野駅・三日市町駅を中心として放射線状に形成されており、これらの主要駅に美加の台駅を加えた4駅周辺をモックルコミュニティバスが結んでおり、主に市役所・キックス・病院などの公共施設へのアクセス充実を図っております。 本市の交通体系の基本方針は、都市計画マスタープランで都市核と位置付けている千代田駅・河内長野駅・三日市町駅周辺にバスなどの公共交通を集積し、これらの都市核を交通結節点として鉄道・バスなどへ円滑に乗り継ぐことができる交通体系を目指すことを基本としております。	可
3	団地と団地を結び、商業・公共施設へ連絡するバスを新設してほしい。この場合、できるだけ安い運賃となるように工夫をしてください。例えば、商業施設で買物をすれば運賃の割引券を発行するなど。 （同旨4件） （運行例） ◎美加の台→北青葉台→南青葉台→南ヶ丘→大矢船→南花台→上原→KICCS→市役所→河内長野駅	バスサービスの多様化が求められてきていることは十分認識しておりますが、自動車への過度の依存や少子高齢化の進展などといった社会的要因から、公共交通利用者の減少傾向が続く中、既存バス路線の維持・充実が当面の重要な課題となっております。 本計画においては、バス利用者数の確保、公共交通空白・不便地域の解消を目標とし、持続発展できる公共交通を確保するために様々な事業を考えており、いただいたご意見については取り組みを実施する中で参考にさせていただきます。	可
【公共交通利用促進のための地域との連携について】			
4	河内長野市は広大な山間部に多くの団地を造り、高野線（千代田、河内長野、三日市町、美加の台各駅）の駅からバス路線をつないで発展してきましたが、昨今、高齢化が進んでいろんな問題が生じています。 私達も「三日市地域公共交通を考える会」を今年1月に発足させて6町の会合をもって、市南部地域の公共交通を考えていますが、市として公共交通についていろいろ検討されていることはとても重要なことと思ひ、注目しているところです。 是非、私達の「考える会」の意見も取り入れていただき、地元住民の意見も十分取り入れて的確な提言をまとめていただきたいと思います。 高齢化が進むと乗用車を手放す人が増え、公共交通を利用するはずですが、便利な公共交通にしないと利用者が減ります。 モックルバスや南ヶ丘の乗合タクシーが増えているのは、その表れでもあります。それぞれ目的も路線も異なりますが、地元住民にとって便利なモックルバス、路線バス、福祉バスを系統的に走らせることによって利用者も増加傾向になると思います。 市が財政的援助をすることも重要ですが、私共の地元住民の意見も十分取り入れながら進められることを切望いたします。	公共交通の利用を促進し、持続可能な公共交通を確保するためには、情報を共有し、みんなで公共交通のことを考えることが大切でありますので、それぞれの地域の事情にとらわれず、市域全体の移手段について考える必要があります。 市としては、そのような地域での議論の場づくりに努めてまいりますので、基本的な考え方をご理解の上、積極的に参加していただきたいと思います。	可

ご意見の提出者 7名（個人6、団体1）

ご意見の数 10件（個人9、団体1）